

須賀川高校創立 100 周年記念特別講演

「伝統、文化、生きるということー須高で学んだことー」

平成 19 年 10 月 6 日

阪路校長先生、過分なご紹介ありがとうございました。

皆さん、こんにちは。西関です。私の名前はありふれた漢字，“東西南北”の「西」と，“関所”の「関」で「ニシゼキ」と呼びます。日本国中でもあまりない名前です。でも、順序を逆にすると“関西”になり、誰でも知っています。“関西の反対”の“西関”と憶えてください。

須賀川高校が創立 100 周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。本校の卒業生として大変誇らしく思います。

本日は、「伝統、文化、生きるということー須高で学んだこと」と題して話しをさせていただきます。

私は、昭和 40 年（1965）3 月に須高の普通科を卒業しましたので、生徒の皆さん方の先輩になるわけです。卒業したのはもう 42 年も前のことです。生徒の皆さんは平成の生まれですから、皆さんの生まれる 20 年以上前に須高を卒業したことになります。

私は 60 年前の昭和 22 年（1947）に、須賀川市の南町、昔の三丁目で生まれ、東北電力営業所の裏にあった家で育ちました。本町にあったキリスト教会の栄光幼稚園に入りましたが、毎朝、幼稚園に行くのがイヤでダダをこねて泣いていたので、自転車に乗せられて幼稚園に無理矢理連れて行かれておりました。ずっとそんな状態だったので、幼稚園は 3 日で退園して卒園していません。いわば幼稚園は中退です。その後、須賀川市立第一小学校に入りました。一小は今の市役所のところにあり、これは無事

に卒業しました。その後、稲荷町にある第一中学校を経て、須賀川高校には昭和 37 年に入学し、昭和 40 年に卒業しました。その後、仙台にある東北大学工学部に入学し、通信工学科を昭和 44 年(1969)に卒業し、大学院を昭和 49 年(1974)に卒業しました。それ以来、東北大学で教鞭をとり、現在は東北大学の情報科学研究科という大学院で「計算機アルゴリズム」や「情報数学」を研究したり、学生に教えたりしております。

このように生まれてから須高を卒業するまでの 18 年間はずっと須賀川にいました。おやじは南町で“布団屋”をやっており、子供の頃は大きくなったら家業の布団屋でも継ごうかと漠然と考えていたわけで、将来“学者”や“大学の先生”になろうなんて^{つゆ}露にも考えていませんでした。

小学校の頃も特段変わった子供でもなく、当時テレビやテレビゲームというものはなかったのですが、“カン蹴り”や“相撲”をとったりして遊んでばかりでした。小学生の頃は体は大きくなかったのですが、毎日のように兄貴と相撲をとっていたせいか、クラスでは強い方でした。ズボンのバンドを“まわし”代わりにして相撲をとるので、バンドが切れてしまってよく親に怒られたものです。この近くの釈迦堂川、当時は西川と呼んでましたが、今の西川橋のあたりに、兄貴とよく泳ぎに来てました。釈迦堂川も今は河川改修でまっすぐになり、浅くなって泳げませんが、当時は曲がりくねっていて、深いところもあったのです。親は仕事で忙しいので、自分で勝手におにぎりを握って、海苔なんかありませんから味噌をつけて、西川に泳ぎにきたものです。当時はコンビニなんて便利なものはなかったのです。また、プールというものがなかった時代でした。私が小学 5 年の頃にやっと二小にプールができました。よく兄弟で二小のプールに泳ぎに行ったものです。こんな訳で、子供の頃は遊んでばかりいて、

ごくごく

極々 普通の子でした。まあ、4年生くらいから「算数の計算だけは他の子より速いかな、一番最初に手を挙げるかな」という程度のいたって普通の子供でした。ただ一つだけ思い出すのは、畳に寝転がって天井を見上げると、昔の天井は天井板が格子になっていて、ちょうど長方形を敷き詰めたようになっていたんですね。それを見てふと、「長方形の対角線の長さは一体どうやって求めるのだろうか？」と考えました。「多分、長方形の横と縦を足して2で割れば、対角線の長さになるのかな？」と小学校4年か5年のときに想像したことがあります。それ以上、考えを進めなかったところが天才とは違うところなのでしょう。「足して2で割る」というのは誤りですけど、“正解”は何でしょうか？高校生の皆さんはわかりますよね？中学校2年か3年のときに習う「ピタゴラスの定理」を使えばよいのです。直角三角形の斜辺の長さは、他の2辺の長さを二乗したものを足して、平方根をとればよいわけですので、長方形の対角線の長さは、横と縦の和を2で割ったものではないわけです。

こんなことを小学校の頃に想像したことがある程度ですので、小さい頃から“学者”となるべく才能の片鱗を見せていたというのでもなく、ごくごく平凡な子供でした。

その後、須高へ入学するわけですが、当時の学区制度は小学区制で、須賀川の子は皆、須高にしか行けませんでした。今のような大学区制で、何処に住んでいようが安高に入れるような時代ではありませんでした。ですから中には、寄留とか言って、あたかも郡山に住んでいるかのように見せかけて、いわばモグリで須賀川からも金持ちの子は安積高校に入ったりしていました。なんで金持ちかというと、須賀川から郡山へ通う定期券代を払えるのは、当時はある程度の金持ちだけだったからです。私の場合、特段、貧乏というわけではなかったんですが、布団屋をしていたおやじは、昔の“巡査”，今で言う“警官上がり”で、頑としてモグリの寄留を許しませんでした。当

時須高からは東北大には2年に1人くらい入っていました。私は、将来何になるのか特に明確な目標を持っていた訳ではないのですが、東北大に入りたいという強い希望を持つようになっていましたので、高校時代はひたすら猛勉強をしていました。須賀川から安積に行った金持ちの同級生、医者ボンボンや中町のお金持ちの息子を見返してやりたいという意地もあったのでしょう。負けず嫌いなのです。ですから、受験勉強以外にはあまり時間を使わないようにしていました。

須高の3年間については、楽しい思い出も、淡い初恋の思い出もありますが、一方、嫌で思い出したくない思い出もたくさんあります。入学した当時は、商業科、今で言うオフィス情報科3クラスと普通科4クラスの合計7クラスありましたので、クラスの数だけでは現在と同じです。商業科は男女共学でしたが、なぜか普通科は2クラスが男だけで、残りの2クラスが女だけで、男と女に分けられていました。どうして男と女に分けられていたかという、私が2年になるとき、須賀川女子高（今でいう桐陽高校）に分離させることが既定路線だったためでしょう。そんなわけで、卒業したときは商業科3クラスと男だけの2クラスでした。現在は、須高も桐陽高校も男女共学になってますので、当時の男女別学政策は正しくはなかったと歴史的には評価できるでしょう。

どうです男子生徒の皆さん？ 阪路校長先生に来月から「坊主頭になれ」と急に言われたら、どうします？ 素直に従いますか？ 坊主頭になる訳ないでしょう。40年前はそれが通用したのです。

嫌な思い出ですが、当時の校長先生の命令一下、全員が坊主頭にさせられたんです。いわゆる長髪禁止です。長髪といってもビートルズのような長髪ではなく、普通の頭髪を禁止にするという、当時の校長先生の強引な命令でした。アナクロリズム、時代

錯誤も甚だしい命令で、生徒全員が大反対でした。当時、担任であった長嶺先生は、大変真面目で真摯に教育に当たられる立派な方で、その長嶺先生は生徒と校長の間に挟まれて困ってしまって、「自分も坊主頭になって模範を示すから、生徒の君達も坊主になってくれ。」と言い出されてしまいました。我々生徒側もまさか担任の先生を坊主にするわけにはいけないので、しぶしぶ坊主頭になったという嫌な思い出があります。

また、悲しい思い出もあります。先程言いましたように、私の名前が西関ですので、
 クラスの出席簿の「あいうえお」順で、私の前は“西 沢 明”君という子でした。
 3年生の夏休みでしたが、その担任の長嶺先生から家に突然電話がかかってきて、阿
 武隈川を搜索してほしいと頼まれました。何だろうと思ったら、実は、同級生の西 沢
 明 君が乙字ヶ滝の滝壺で泳いでいて、溺れて行方不明になってしまったのです。
 当時は阿武隈川もまだ汚れていなく、川で泳ぐのはごく普通で、乙字ヶ滝の滝壺で泳
 ぐ子もいたのです。自転車で何日か乙字ヶ滝の下流を探しましたが見つかりませんで
 した。何日か経って、郡山の方で遺体がやっと見つかったとマメタイムスに記事が載
 りました。当時私は学級委員長でしたので、お葬式で焼香させていただいたという、
 大変悲しい思い出もあります。現在、乙字ヶ滝のそばに西 沢 明 君の慰霊碑が建
 っていますので、乙字ヶ滝に行った折はお参りをして下さいさう願います。

また、ちょうど東京オリンピックがあり、本校の卒業生であるマラソンの円谷幸吉選手が銅メダルを取りました。円谷選手が日本選手団の“目にも鮮やかな真っ赤なブレザー”を着て、須高での壮行会や入賞した報告会に現れたのを今でも思い出します。

須賀川市では業績を偲んで毎年10月に「円谷幸吉メモリアルマラソン」が開催されているそうですね。ここの須賀川アリーナの「円谷幸吉メモリアルホール」には、御遺族から寄贈された展示品が公開されているとききました。円谷選手は東京オリ

ピックで銅メダル獲得という快挙を成し遂げた数年後、自ら命を絶つわけですが、皆さんは彼の血染めの遺書をご覧になったことはありますか？食べ物話がたくさん出てきますが、一度読んだら決して忘れることのできない名文ですので、ここで紹介させていただきますと思います。

父上様、母上様、

三日とろろ美味しゅうございました。

干し柿、餅も美味しゅうございました。

敏雄兄、姉上様、

おすし美味しゅうございました。

かつみ

克美兄、姉上様、

ブドウ酒とリンゴ酒美味しゅうございました。

いわお

巖兄、姉上様、

しそめし、南ばんづけ美味しゅうございました。

喜久蔵兄、姉上様、

ブドウ液、養命酒美味しゅうございました。

又いつも洗濯ありがとうございました。

孝造兄、姉上様、

往復車に便乗させて戴き有難うございました。モンゴいか美味しゅうございました。

まさお
正男 兄，姉上様，
お気を煩わして大変申し訳ありませんでした。

さちお みきお あつひさ
幸雄 君，秀雄君，幹雄 君，敏子ちゃん，ひで子ちゃん，良介君，敦 久 君，
みよこちゃん，ゆき江ちゃん，光江ちゃん， あきら よしゆき けいこ
 さちえ まさつぐ
 さん，幸 栄君，裕ちゃん，キーちゃん，正 嗣 君，
立派な人になってください。

父上様，母上様，
幸吉はもうすっかり疲れ切って走れません。
なにとぞお許し下さい。

気が休まる事もなく，
御苦勞，御心配をお掛け致し申し訳ありません。

幸吉は父上様母上様のそばで暮らしとうございました。

(円谷幸吉の遺書 1968 年 1 月 9 日没)

ノーベル文学賞を受賞した，かの文豪，川端康成はこの遺書を読んでこう評してお
ります。「繰り返される“おいしゅうございました”という，ありきたりの言葉が，実
に純な命としていきっており，遺書全文の韻律をなしている。美しくて，誠に哀 ^{かな}しい
響きであり，^{せんまんご}千万語 ^{あいせつ}も尽くせぬ哀 切 である。」

私が初めてこの遺書を読んだのが，皆さんと年齢的にあまり変わらな頃でした。同
じ時代に，同じ土地に生まれ育った者として，円谷選手のこの“危ういまでの無垢な ^{むく}
ありさま”が，あまりに痛々しく，あまりに哀しすぎると思ったものでした。皆さん

はどのように感じたのでしょうか？

そ
少々話しが逸れましたが、私は無事須賀川高校を卒業して、仙台の東北大学に入学しました。仙台の町の中を“広瀬川”という川が流れております。歌手の“さとう宗幸”が歌ってヒットした“青葉城恋唄”にも出てくるので、父兄の皆様や卒業生の皆様はおぼえていらっしゃるでしょう。昭和40年に運よく東北大に入学して、入学手続きをして下宿に帰る途中、4月上旬で冷たい風が吹いている中を、その広瀬川に架かる“仲の瀬橋”を渡っていたときのことですが、これはもう明確に記憶しているのですが、「大学を卒業したら会社に勤めて技術者になって金儲けをするようなことはしないで、大学院に進もう。大学院を修了したら、大学の先生になって、大学生を教えたり、人類の役に立つ科学技術の研究をしよう」と、これは本当に心に誓いました。何の根拠もなかったし、自分にそんな能力があるとも思っていませんでした。でも、須高から東北大に入るくらいの努力をすれば、郡山や仙台など都会の進学校である安高や仙台一高出身で、パンツの紐が伸びきったような学生相手なら、何とかなるだろうという、“カラ”自信みたいなものがありました。

東北大学の工学部は4年間ですが、大学院は5年間です。その後、助手、助教授になり、一年間のアメリカ留学を経て、41歳の時に教授になって現在に至っております。計算機ソフトウェアの基になる「アルゴリズム」といって、“計算する手順をどううまく作るか”という分野や、「暗号」の分野では一応世界に名前が知られております。

私は今年で60歳になりましたが、この60年間私なりに一生懸命生きてきて、いろいろなことを経験し学んでまいりました。そのなかで、若い皆さんが今後より良い人生を歩んでいかれるために役に立つのではないかと考えることが3つありますのでお話ししたいと思います。

世界の“三大ガッカリ”って何だか知っていますか？世界的に有名な観光名所だけで、実際に行ってみるとショボサにガッカリするところです。何だか知ってますか？

一つ目はシンガポールの「マーライオン」です。口から水を噴いて立っている魚み^ふたいなライオンみたいなやつです。写真では大きく見えるけど、実際はちゃ^{ちや}っこくてガッカリもんです。最近はもっと大きいマーライオンを作ってます。二つ目はデンマークのコペンハーゲンにある人魚姫「マーメイド」です。これまた、実際見てみるとなんてことないショ^{しよ}ボイ“ブロンズ像”でした。三つ目はいろんな説がありますが、ベルギーのブリュッセルにある「小便小僧」だったり、オーストラリアのシドニーにある「オペラハウス」だったりします。「小便小僧」はガッカリもんですが、シドニーの「オペラハウス」はそれなりにユニークで優雅なデザインで、そんなにガッカリしません。

ところで、須賀川の“一大ガッカリ”って何だと思いますか？

須賀川で有名なのは「松明明かし」、「牡丹園」と「乙^{おつじ}字ヶ滝」の三つですけど、こう言っ^{おつじ}ては何だけど、アメリカとカナダの国境にある「ナイガラの滝」と比べると、「乙^{おつじ}字ヶ滝」はガッカリもんでしょう。でも、残りの二つの「松明明かし」も「牡丹園」も世界に誇れるものです。あんなに大きな“松明”を燃やすようなお祭りは世界中どこにもありません。子供の頃から“小松明”を持って愛宕山に行っていたので、須賀川の人間には当たり前すぎて、どこの町にもあるのかなと思って何も自慢に思っ^していなかったのですが、実は世界に誇れる行事なのです。

「松明明かし」のいわれを知ってますか？須賀川の殿様、二階堂氏、当時は女性の殿様が須賀川を治^{おさ}めていましたが、仙台の伊達政宗に滅ぼされたので、町民が殿様の^しを偲^{しの}んで愛宕山に集まったのが始まりと言われています。いわば私は、須賀川の敵

地“仙台”に40年も住んでいることになります。

「牡丹園」も子供の頃から春になると自転車で見に行っていたので当たり前になっていて、そんなにすごい「牡丹園」だとわからなかったのですが、世界中、特に本場“中国”中を探しても、洛陽の国際牡丹園以外には、あんなにたくさん300種類もの牡丹を集めている立派な「牡丹園」はありません。間違いなく世界一です。本日ご出席の同窓会会長“柳沼勝馬”さんの御先祖の“柳沼源太郎さん”が苦勞して牡丹園を大きくされ、それが現在の牡丹園の基礎になったのです。

「キュウリ天王祭」って知ってますか？私が育った三丁目の夏祭りです。皆さん知っているように、キュウリのお祭りで、2本キュウリを持って行って、代わりに神前の1本をいただいて帰るわけですが、こんなキュウリのお祭りは世界中どこを探してもありません。ユニークなお祭りです。

須賀川程度の人口の町で、「マメタイムス」と「阿武隈時報」という新聞、地域紙が二つもあるような町は世界中どこにもありません。「マメタイムス」と「阿武隈時報」の記者さんは今日は取材においでですかね？

須賀川は小さい町で、何かをすると町中にすぐ知れ渡ってしまうような町で、閉塞感が漂っていて、高校のころは嫌で嫌で早く須賀川から出て行きたかったわけですが、大人になってみるとわかるんですが、「松明明かし」、「牡丹園」、「キュウリ天王祭」、「マメタイムス」、「阿武隈時報」って何てユニークな伝統文化が豊かな町なのかと気がつきました。是非、郷土の伝統と文化を誇りに思ってください。これが言いたいこと三つの一つ目です。

小学校から大学院までの間にいろいろな恩師に巡り合いました。須賀川一中では角田新平先生が担任で、生徒を決して殴らない温厚な方でした。生徒を殴らないという

のは今では当たり前ですが、当時は意味もなく、気まぐれで生徒を殴るような先生が実際にいましたし、そんなことを親も教育委員会もマスコミも問題にするような時代ではありませんでした。須高では担任の長嶺力夫先生に誠実に生きるということを学びました。担任ではなかったのですが、英語を教えていただいた金山裕先生は東北大学出身ということもあり、後に金山先生自身が東北大学の文学部の大学院に学生として戻られ、一緒に仙台で学生をしていたということもあり、本当にいろいろ教えていただきました。大学では齊藤伸自先生にご指導いただきましたし、アメリカでは Duffin 先生にお世話になりました。皆さん立派な先生方ですが、共通していることは、対価を求めない、教えることを喜びとしている方々ばかりでした。人生を永く生きていると、恩師ばかりでなく、いろいろな人と巡り合います。そういった周りの方々に助けられ今があるのだということです。

先程の円谷選手の遺書には、家族への感謝の気持ちが満ち溢れております。自殺に至るまでには、いろいろと不条理なこともあり、周囲の人を快く思わなかったこともあったでしょう。しかし、恨み言など一言もなく、ただただ謝罪と感謝の気持ちを述べております。たとえ最後は不遇であったとしても、周りの人に感謝の気持ちを持てたということは、彼の人生の大半は幸せなものであったろうと思います。

私どもは、両親、兄弟、同級生、近所の人々、恩師、同僚、上司等々、いろいろな人々に巡り合いますが、悪人は殆どおりません。こういう周りの方々に助けられて、自分は生かされ、存在するということをよく覚えておいてください。これが、言いたいこと三つの二つ目です。

さて、皆さん、世の中は不公平、不平等、格差だらけだと思いませんか？金持ちもいれば貧乏な人もいます。大金持ちの家に生まれてくれば、オートバイも買ってもら

えるでしょうし、塾に行けたり、家庭教師も付けてもらえますが、一方、貧乏な家に生まれる子はそうはさせてもらえません。知能指数が高い子も低い子もいます。知能指数の高い子はさして勉強しなくても試験で良い点を取るでしょうが、知能指数の低い子はそうはいかないでしょう。しかし、金持ちにも貧乏な人にも、頭の良い子にも悪い子にも、一つだけ全員に平等なものがあるのです。何だと思いませんか？

それは“時間”です。時間だけは誰にでも平等に 24 時間あります。問題はこの平等に与えられている 24 時間をどう有効に利用するかだけです。

皆さん、今年の夏の高校野球をご覧になりましたか？驚いたことに、参加 4081 校の頂点に立ったのは、野球の世界ではまったく無名の公立高校「佐賀北高」でした。高校野球といえば、昨年から「特待生」制度が問題になっておりました。高校野球の選手を取り巻く環境は、一般の社会と同じように一様ではありません。かなり極端な「格差」が存在します。専用球場や寮を持つような高校もあれば、「佐賀北」のように、狭いグラウンドをサッカー部と共用し、用具を買うのもままならないところもあります。しかも、練習は放課後の 7 時までと時間が制限されていました。しかし、彼らは格差を嘆くよりも、与えられた環境の中で真摯に野球に取り組み、その差を埋める努力をしたのでしょう。「勝利の女神」は、前向きに努力したものにこそ微笑^{ほほえ}むものです。

人生では、何度か頑張らないといけない時があります。高校生の皆さんはその一回目にあると言ってよいでしょう。別に受験勉強にガンバレと言っているわけではありません。人生いろいろな目標があります。その目標が、いわゆる一流大学に入らないと実現できない人は、受験勉強に頑張らないといけません。でも、「英語は得意だけど数学は不得意だ」とか、「音楽は大好きだ」とか、「美術は得意だ」とか、「学科はどれもまいちだが、お年寄りと話をするのが大好きだ」とか、「子供と遊ぶのが好きだ」

とか、「病人や老人の看護をしたい」という人もいるでしょう。何でもいいのです。自分の特徴を活かせるような目標を探して、皆に平等にある 24 時間を有効に利用して、その目標を実現させてください。テレビゲームもしたい、クラブ活動も、アルバイトも、デートもと、したいことは山ほどあるでしょうけど、それらを全部したら 24 時間はすぐ無くなってしまって目標は実現できなくなります。一極に集中しましょう。

誰でも 10 年間同じことを頑張れば一流になります。学者だって同じ分野のことを 10 年継続して研究すれば、その分野では世界で一流の学者になります。同じことで、大工になったら、10 年腕を磨きましょう。絶対に立派な棟梁になれるはずです。会社に入って営業に回されたら、セールスを極めればよいのです。「継続は力」です。

以上三つ申し上げました。

一つ目は、郷土の伝統と文化を見直して、誇りを持つということです。

二つ目は、皆出会う周りの人々に助けられ、生かされている存在です。

周りの方にいつも感謝の念を持ちましょうということです。

三つ目は、平等にある 24 時間を有効に利用して、目標に向かって「10 年は頑張ろう」ということです。

この三つを守れば、豊かな実りある人生になるはずです。これが私が須高で学んだことです。

最後に、若い皆さんの将来と須賀川高校の益々のご発展を期待して、講演を終わりたいと思います。

ご静聴ありがとうございました。